

MOTアニュアル2010:装飾 プレスリリース 2010 January

A N I

1 0

MOT
ANNUAL
2010

装飾 | Neo-Ornamentalism
from Japanese Contemporary Art

MOTアニュアル2010

青木克世 Katsuyo AOKI 小川敦生 Atsuo OGAWA 黒田潔 Kiyoshi

KURODA 塩保朋子 Tomoko SHIOYASU 野老朝雄 Asao TOKOLO

松本尚 Nao MATSUMOTO 水田寛 Hiroshi MIZUTA 森淳一 Junichi

MORI 山本基 Motoi YAMAMOTO 横内賢太郎 Kentaro YOKOUCHI

2010年2月6日(土) - 4月11日(日) 月休*3/22 開館3/23 休館

東京都現代美術館 企画展示室1階

Museum of Contemporary Art Tokyo

February 6(sat) - April 11(sun), 2010

Closed on Mondays (except for March 22), March 23

Katsuyo AOKI, Predictive dream IX, 2009, Private collection, Taipei courtesy of Ronggenmaster/ photo by Taisuke KOYAMA

MOTアニュアル2010:装飾

MOT Annual 2010:Neo-Ornamentalism from Japanese Contemporary Art

「装飾」は色彩や形態と同様に、重要な造形要素であるばかりでなく、しばしば物質性を超えたひとつの精神性を象徴、表現するものです。縄文土器や装飾古墳の幾何学文様、バロックやロココの建築にみられる装飾は、単に時代の美意識が表現されているだけではなく、そのなかには空間や時間、自己の存在を問うひとつの世界観を見いだすことができます。同じように、現代のタトゥーや「ゴス」と呼ばれるファッション、あるいはより身近なデコ電などの装飾、装身行為には一種の同時代的な精神性が表現されていると言えるかもしれません。

東京都現代美術館では、時代と結びついたテーマによる同時代の若手アーティストを紹介する展覧会「MOTアニュアル」を1999年より開催しています。10回目を迎えた今年は「装飾」をテーマとしました。装飾という造形形式が本来持っているエモーショナルな訴求力を探求する10名の精鋭たちが、繊細、あるいはダイナミックに1200㎡の空間を満たします。

◆ 展覧会の見どころ ◆

- 「装飾」に満たされた展示空間が出現

「装飾」をテーマとした今年のMOTアニュアルでは、ひと味違った現代美術の新しい魅力を紹介。膨大な時間をかけた、緻密かつ壮大な作品が並びます。300kgの塩によるインスタレーション(山本基)、高さ6.3×幅27mのウォールペインティング(黒田潔)、高さ6.5m×幅3.5mの切り絵作品(塩保朋子)、総重量約300kgの陶製レリーフ(青木克世)、幅6mの油彩(水田寛)など、いずれも東京都現代美術館が持つ国内屈指の空間によって実現されるものです。

- ジャンルを超えた同時代の造形言語を紹介

装飾的表現の傾向が顕著なグラフィティやグラフィック・デザインを代表する、イラストレーターの黒田潔。科学と芸術の接点を探る動きのなかから、数学的な配列を応用した文様を作り出す建築家/デザイナーの野老朝雄。工芸というカテゴリーを超えて、現代美術として注目される陶の青木克世など、これまでの既存の現代美術の枠にとらわれないアーティストたちが参加します。

- 「装飾」の意味を浮き彫りにする関連プログラム

ケルト美術の研究から、世界各地の装飾を採集し装飾による新しい人類史を組み立てる、鶴岡真弓氏(多摩美術大学教授)の講演会をはじめ、440年間使われ続けたメルカトル図法に替わる新しい地図図法で注目される鳴川肇氏などの、多彩なゲストを迎えたアーティストトークを開催いたします。(詳細は次ページをご覧ください。)

MOTアニュアル2010:装飾 展覧会情報

タイトル: MOTアニュアル2010:装飾
英文タイトル: MOT Annual 2010:Neo-Ornamentalism from Japanese Contemporary Art
会期: 2010年2月6日(土)~4月11日(日)
休館日: 月曜日(ただし3/22は開館、3/23休館)
開館時間: 10:00~18:00(入場は閉館の30分前まで)
会場: 東京都現代美術館 企画展示室1階
主催: 財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館
協力: 玉の肌石鹸株式会社

参加作家: 青木 克世 / 小川 敦生 / 黒田 潔 / 塩保 朋子 / 野老 朝雄 / 松本 尚 / 水田 寛 / 森 淳一 / 山本 基 / 横内 賢太郎
担当学芸員: 関 昭郎(東京都現代美術館 事業企画課企画係)

観覧料: 一般 1,000円(800円)、大学生・65歳以上 800円(640円)、中高生 500円(400円)、小学生以下 無料 ※()内は20名様以上の団体料金
※本展のチケットでMOTコレクションもご覧いただけます。
同時開催「サイバーアーツジャパン」展との共通チケット:
一般1,500円、大学生・65歳以上1,200円、中高生750円

関連プログラム: 講演会
鶴岡真弓(多摩美術大学教授 / 装飾デザイン史・ケルト芸術研究)
「現代と装飾—祈りと思考のマイクロコスモス」
2010年 2月27日(土) 15時~17時 地下2階講堂 参加無料(当日先着200名)

アーティストトーク

2010年 2月6日(土) 塩保朋子、松本尚、水田寛、山本基、横内賢太郎
2月21日(日) 青木克世、森淳一
3月7日(日) 小川敦生 ゲスト:山口絵美(連作家)
3月21日(日) 黒田潔 ゲスト:工藤キキ(アート・ライター)
4月4日(日) 野老朝雄 ゲスト:鳴川肇(構造家・建築家)
いずれも15時~。2月6日(土)のみホワイエ(参加無料)、他は展覧会会場(要展覧会チケット)

展覧会カタログ: 注目の写真家小山泰介氏をフィーチャーした、四種類の表紙が選べるビジュアルカタログ
テキスト: 鶴岡真弓・関昭郎 / デザイン: 志賀良和
B5版変形 128ページ 2010年3月中旬刊行予定 価格未定

同時開催: 「文化庁メディア芸術祭協賛事業 サイバーアーツジャパン—アールスエレクトロニカの30年」
2010年2月2日(火)~3月22日(月・振替休日)
「MOTコレクション」2010年1月26日(火)~4月11日(日)
「井上雄彦 エントランス・スペース・プロジェクト」開催中~3月28日(日)

お問い合わせ先: Tel. 03-5245-4111(代表) 03-5777-8600(ハローダイヤル)
ホームページ: <http://www.mot-art-museum.jp>

交通案内:

- ・ 東京メトロ半蔵門線・清澄白河駅B2番出口より徒歩9分
- ・ 都営地下鉄大江戸線・清澄白河駅A3番出口より徒歩13分
- ・ 東京メトロ東西線・木場駅3番出口より徒歩15分、または都営バス(業10)「業平橋駅前」行き、(東20)「錦糸町駅前」行きで「東京都現代美術館前」下車
- ・ 都営地下鉄新宿線・菊川駅A4番出口より徒歩15分、または都営バス(業10)「新橋」行き、(東20)「東京駅丸の内北口」行きで「東京都現代美術館前」下車
- ・ JR東京駅丸の内北口2番乗り場より、都営バス(東20)「錦糸町駅前」行きで「東京都現代美術館前」下車
- ・ 首都高速「木場」又は「枝川」出口利用

広報お問い合わせ先: 東京都現代美術館 事業企画課企画係 広報班
吉川 m-yoshikawa@mot-art.jp / 野口 r-noguchi@mot-art.jp
江東区三好4-1-1 TEL.03-5245-1134(直通) / FAX.03-5245-1141

※ 各作品画像は広報用素材としてもご提供しております。
ご希望の方は本リリース最終ページの申込書をご利用ください。
また1・3・9以外は参考イメージですのでご了承ください。

◆青木 克世 / Katsuyo AOKI
(1972年 東京都生まれ)



柔らかく溶かした陶土を積み上げるスリップ技法によるオブジェを制作し、日本における西洋文化の影響を「装飾」から見直してきた青木克世。近年は西洋の歴史的様式から離れ、スカル(頭蓋骨)などをモチーフとした、独自の装飾様式を生みだしつつあります。新作を中心としたインスタレーションです。



1. 青木克世《予知夢IX》2009年
個人蔵 Courtesy of Röntogenwerke



2. 小川敦生《cutter knife skating》2009年
石鹼へのエングレーヴィング

◆小川 敦生 / Atsuo OGAWA
(1969年 神奈川県生まれ)



小川にとっての装飾は、時間の蓄積に等しいものです。電話をかけながら自然に生まれたという一筆書きは、単純なパターンの繰り返しでありながら、いつの間にかひとつの生命のように動きだします。

◆黒田 潔 / Kiyoshi KURODA
(1975年 東京都生まれ)



ナム＝ジュン・パイク・アートセンターの「NOW JUMP!」展(2008年)やグッドデザイン賞を受賞した「新宿サザンビートプロジェクト」(2005年)における大画面の壁画作品で、グラフィックの新しい魅力を提示した黒田潔。本展のため、2009年7月にアラスカでの取材を行いました。東京都現代美術館の高さ6mの空間に挑みます。



3. 黒田潔《ONIGAMI》2008年 アクリルガッシュ
ナム＝ジュン・パイク・アートセンター(韓国京畿道)
「NOW JUMP!」におけるウォールペインティング



◆塩保 朋子 / Tomoko SHIOYASU
(1981年 大阪府生まれ)



2008年に五島記念文化賞美術新人賞を受賞し、現在世界を巡って制作を行っている塩保朋子。切り絵による集大成の大作《Cutting Insights》(2008年)を出品します。光を効果的に使った壮大なインスタレーションは、宇宙や地球における生命の誕生を想起させます。

4. 塩保朋子 《Cutting Insights》2008年 紙
高橋コレクション Courtesy of SCAI THE BATHHOUSE 撮影:木奥恵三

◆野老 朝雄 / Asao TOKOLO
(1969年 東京都生まれ)



数学的なアプローチから無数の文様(パターン)を作り続け、建築とデザインの領域で活動する野老朝雄。代表作の《トコロ柄マグネット》は、2006年に新日本様式100選にも選定されています。幾何学的な視点から自然界における形の生成原理を探る、これまでにない彫刻プロジェクトを試みます。



5. 野老朝雄 菅野美術館(宮城県塩竈市)における「野老朝雄展」展示風景 2007年



◆松本 尚 / Nao MATSUMOTO
(1975年 兵庫県生まれ)



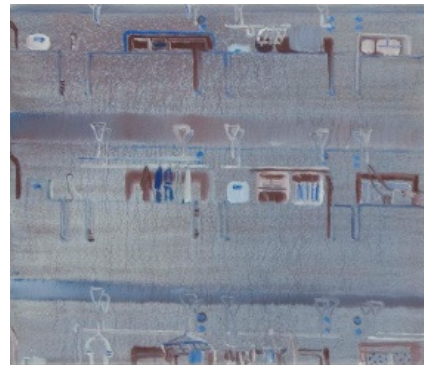
松本尚の絵画を描くプロセスは、まずイメージーションに基づいた彫刻を作り、そしてそれを形態と色彩、装飾で結び付けて二次元化させます。本展では男女それぞれが持つ二律背反性をテーマにした連作を発表します。

6. 松本尚 《Baby Blues the Blues》2007年 油彩・カンヴァス
アーツスペース虹蔵 撮影:シュヴァーブ・トム

◆水田 寛 / Hiroshi MIZUTA
(1982年 大阪府生まれ)



反復するリズムのなかに永遠性を見いだしたアンリ・マティスとは対照的に、油彩の水田寛が日常の光景から見出す装飾的なリズムは一種、ノスタルジックで、同時に次の瞬間に消えてしまうような危うさを持っています。本展では新作のシリーズを発表します。



7. 水田寛 《グレーの団地》2009年 油彩・カンヴァス
作家蔵 Courtesy of ARTCOURT Gallery



8. 森淳一 《minawa》2008年 木 Courtesy of void+

◆森 淳一 / Junichi MORI
(1965年 長崎県生まれ)



空間との親和性、あるいは対立と行った彫刻の近代的な既成概念から離れ、ひたすら彫り進める行為を続けることで内なる空間を生みだしていく森淳一。近年はそれまでの大理石に代わって、柘植を使うことでより自由な表現を獲得しています。

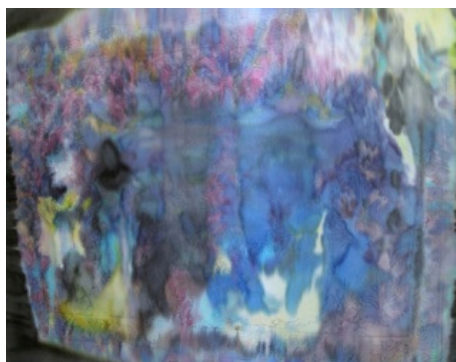
◆山本 基 / Motoi YAMAMOTO
(1966年 広島県生まれ)



フィリップモリスK.K.アートアワード(2002)の受賞など、塩を使ったインスタレーションで海外からいち早く注目された山本基。塩による複雑な線の組み合わせによって、空間は永遠にたどり着くことのない無限の迷宮へと変容します。300kgの塩を使い、本展最大である300㎡の空間に挑みます。



9. 山本基 《迷宮》2006年 塩
チャールストン大学付属図書館(アメリカ合衆国サウスカロライナ州)におけるインスタレーション



10. 横内賢太郎 《book-tear》2008年
染料、メディウム、サテン・カンヴァス 東京都現代美術館蔵

◆横内 賢太郎 / Kentaro YOKOUCHI
(1979年 千葉県生まれ)

2008年にVOCA賞を受賞し、もっとも期待を集める画家横内賢太郎。鮮やかな色彩が独特な浮遊感を生み出す彼の画面のなかで、形態は溶解し、最後に残るのが装飾です。新しいアプローチからの新作シリーズを発表します。

東京都現代美術館 事業企画課企画係 広報班宛

FAX. 03-5245-1141

本展覧会広報用素材として、作品画像10点をご用意しております。ご希望の際は下記申込用紙に必要事項をご記入の上、ファックス又はEメールにてお申込みください。

なお、写真の使用に際し、以下の点をご確認ください。

① キャプションは、作家名、作品名、制作年、撮影者等を必ず表記ください。

② 作品のトリミング、文字載せはお控えください。

本展記事を紹介頂く場合には、恐れ入りますが情報確認の為の校正、掲載誌(紙)、DVD、CD等をお送りください。

また読者様・視聴者様へのプレゼント用招待券もご手配可能ですので、ご希望の場合はお申し付けください。

媒体名:

○印をおつけください

種別: TV ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー
ネット媒体 携帯媒体 その他

発売・放送予定日:

御社名:

ご担当者名:

Eメールアドレス:

@

(〒 -)

ご住所:

お電話番号:

FAX:

図版番号: ご希望の図版番号に ✓ をおつけください。

- 1. 青木克世 《予知夢IX》 2009年 個人蔵 Courtesy of Röntogenwerke
- 2. 小川敦生 《cutter knife skating》 2009年 石鹸へのエングレーヴィング
- 3. 黒田潔 《ONIGAMI》 2008年 アクリルガッシュ
ナム＝ジュン・パイク・アートセンター(韓国京畿道)「NOW JUMP!展」におけるウォールペインティング
- 4. 塩保朋子 《Cutting Insights》 2008年 紙 高橋コレクション Courtesy of SCAI THE BATHHOUSE 撮影:木奥恵三
- 5. 野老朝雄 菅野美術館(宮城県塩竈市)における「野老朝雄展」展示風景 2007年
- 6. 松本尚 《Baby Blues the Blues》 2007年 油彩・カンヴァス アートスペース虹蔵 撮影:シュヴァーブ・トム
- 7. 水田寛 《グレーの団地》 2009年 油彩・カンヴァス 作家蔵 Courtesy of ARTCOURT Gallery
- 8. 森淳一 《minawa》 2008年 木 Courtesy of void+
- 9. 山本基 《迷宮》 2006年 塩 チャールストン大学付属図書館(アメリカ合衆国サウスカロライナ州)におけるインスタレーション
- 10. 横内賢太郎 《book-tear》 2008年 染料、メディウム、サテン・カンヴァス 東京都現代美術館蔵

*1・3・9以外は参考イメージ

プレゼント用招待券をご希望の場合は ✓ をおつけください。 5組10名様 / 10組20名様

広報お問い合わせ先: 東京都現代美術館 事業企画課企画係 広報班
吉川 m-yoshikawa@mot-art.jp / 野口 r-noguchi@mot-art.jp
江東区三好4-1-1 TEL.03-5245-1134(直通) / FAX.03-5245-1141